

凡例

二重線：削除

強調，下線：追加

通し番号 104①

HP番号 23

第4章 平面交差点の交通容量

・現況交差点の把握と解析の方法についての記述を豊富にしてほしい。

<対応方針：参考文献（交通信号の手引き等）を紹介する。>

○作業の進捗状況

新規提案

（記述案）

第4章 平面交差点の交通容量

6. 信号交差点の交通容量の検討と計算例

6.1 検討手順

信号交差点の交通容量を検討する手順は，一般的には図 4-6-1 に示すようなものとなるのであるが，交差点の幾何構造を選定するときには，当然同時に，その交差点の交通運用方法，すなわち，信号制御方式を念頭においていなければならない，必ずしもこの図の流れに従って段階的に検討を行うべきものではない．場合によっては，新規の交差点を計画・設計するときに，先に信号制御方式を設定して，その後そのために必要な幾何構造を検討するという手順も十分考えられることであり，むしろ一般の製造物では，その使用方法を決めたうえで形状や構造の設計を行うのが普通である．

それゆえ，交通容量の計算手順は場合に応じて設計者の判断によって自由に行われるべきものといえるが，ここでは交差点設計上の一般的な参考とするため，交差点交通容量の計算に必要な設計交通量の設定方法，計算手続について説明を加える．

既設交差点の改良を実施する場合には，図 4-6-1 の検討手順に先立ち，制御性能の継続的な監視に基づく対象（ボトルネック）交差点の抽出が必要である．詳細は，「交通信号の手引き」（（社）交通工学会編）の「第6章 信号制御の運用と改善」を参照のこと．

（中略）

第6章 平面交差の交通制御

3.3 信号制御実施上の留意事項

3.3.1 運用開始後の観察，設定値の修正

新設交差点の場合はもちろんのこと，既存交差点の改良においても，始めに設定した信号制御パラメーターは必ずしも交通実態に合致するとは限らない．また，仮に始めに非常に良いパラメーター値を設

定できたとしても、時の経過とともに交通状況自体が変化するので、始めの設定値は適合しなくなる。したがって、日常的に信号の運用状況を観察し、必要に応じて設定値の修正を行なうことが良好な運用を保つためにはどうしても必要である。なお、ボトルネック交差点及び事故多発交差点の対策例に関しては、「交通信号の手引き」（（社）交通工学会編）の「6.3 障害と対応」を参照のこと。